



実戦練習で打席に立つ、主砲の東健太郎(6日、大阪市内)

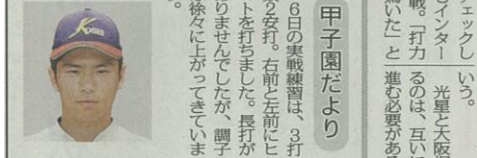
光星 2度目の実戦練習 「攻守の調子は上向き」

11日の初戦を控え、八学光星ナインは6日、大阪市南港中央野球場で約2時間練習した。現地入りしてから2度目となる本格的な練習を行い、調子は上向きとナインの表情は明るかった。

ベンチ入りの3人を含む4投手を相手に、主力が3打席ほど入り、打撃の調子を確認。塁に出た際には、仲井宗基監督からは「もっと次(の塁)を狙っていい」となぞ指示が飛んだ。長打や好投があると、ティスバツティングなどのナイン同士で声を掛け合い、明るい雰囲気での練習が進んだ。

仲井監督は「前回の実戦練習よりも攻守の調子は良くなっている」と手応えをつかんだ様子。三塁の下山昂大は「守備はだいぶ良くなったが、打撃が監督ではない。さらに調整したい」と意気込んでいた。(金澤千博希)

面校の健闘を願う
○春夏連覇を狙う強豪・大阪桐蔭(北大阪)の主将中川卓也の兄で、八学光星硬式野球部OB(2015年度卒)の優さんが6日、試合を観戦。弟の初戦突破を喜びながら、大阪桐蔭と光星がぶつかったはず



大阪桐蔭で主将を務める弟・中川卓也の応援に駆け付けた、光星OBの兄・優さん(6日、甲子園球場)

結果も欠かすチェックという。ており、決勝戦もインターネット中継で観戦。「打力があるのは、互いに8強以上に進む必要がある。優さんは最高」

⑨ 矢野虎弥(3年) —大阪・大阪産業大付属中出



甲子園だより
6日の実戦練習は、3打数の安打。右前と左前にヒットを打ちました。長打がありませんでしたが、調子は徐々に上がってきています。

最高の状態へ準備

関西入りした当初に比べて暑さには慣れました。今日は涼しいと感じています。大会は開幕しましたが、自分たちの初戦までは、まだ目にはありません。試合から長く離れてしまうと、調子を維持するのが難しく、今上向きの打撃が落ちてしまわないか心配です。でも試合に最高の状態を持って行けるよう練習し、準備したいと思います。